

# ゆめサロン

## 便り

令和 4年  
10月 15日  
吉賀町ゆめサロン  
No.525

### 秋本番です。



皆様お元気で過ごさしのこと  
存じあげます。

金モクセイの香りが辺り一面漂  
つた日も、もう終わり、彼岸花も  
終わって、青空の下で咲き残っ  
たコスモスが風に揺れていま  
す。

コロナが大分治まりかけたと思  
うのですが、日によつては多  
い人数だったりして中々安心し  
て会を開くことが出来ません  
そのようなことで今回も又お  
一人ずつにお電話させていただ  
きご意見をお聞きして休むこと  
に致しました。一日も早くお会  
いできることを楽しみに致しま  
しょう。

### 秋祭り



幾つになつてもお祭りは、心と  
きめくものだなあと思ひます。神

様の櫛を新しいものに取り換え  
てお寿司を作る準備に取り掛か  
ります。先ず掃除機をかけて、出  
来た入れ物の消毒から、でも爺婆  
二人しかいないのですから、小さ  
い入れ物しかありません。作つて  
いると子供らの声が聞こえるよ  
うに思えます。町なかを踊つて歩  
くことどもらについてあるいたこ  
とや夜にお客さんが来て下さつ  
たこと、遅くまで神楽をみていた  
ことそして夜店で回転焼きなど  
買ったことなど時代は巡り自分  
の子供時代まで辿つてにやにや  
しています。そこにはもうこの世  
にはいない人たちがまがいている  
です。  
お祭りが運んでくれた束の間  
の時間はお昼を告げるチャイム  
とともに現実に返されて普通の  
おばさんになっておりました。

そこに、神社の掃除や職建てに  
いつていた夫が帰つてきて、我  
が家の職建て、立ち寄られた方  
へのお付き合いと忙しく続き  
ます。

ふと思ひ出す私は何年前か前  
に癌を患い何もできない日も  
あつたのでした。何もかもひつ  
くるめて感謝する私です。



大原の  
本蓮かき

「すっかり秋になりました  
ね。周りの木々は赤く色づいた  
のではないですか」  
と少女の様な弾んだ声です。

「まだ緑です済みません。秋桜  
の花にとまった赤トンボがは  
ねをやすめています。青空をか  
らすわがもの顔で飛んでい  
て時々こちらを見て「かあ」と

言っています。というところ

「田舎はいいねえ、四季が有つ  
て」と色んな思ひ出をはなされ  
ます。今話したことを紙に書い  
たら詩ができそうです。

この方はお若い頃教員をされる  
ご主人の奥さんでこちらで二人  
の子供さんを育てられました。  
お互い自然の情景の情報交換を  
しています。楽しいひと時はお互  
いにないものなだりです。



十月のゆめさん

休会になりましたが

この度はごきげんよう

みなさんおげんきでー



# ゆめサロン

## 便り

令和 4年  
11 月 6 日  
吉賀町ゆめサロン  
No.526

### もう晩秋 です。



そこそこにある楓が一本また一本と、赤や黄色の世界に変身し始めました。皆様お元気で過ごさしのことと思います。

でも何時まで経ってもコロナは減るどころかだんだん多くなったりして少しも希望が持てません。十一月のサロンはどうしたらいいのかと心配です。

世の中は行動が緩和されていますが病を経験した者にとって心配は尽きませんね。またご意見下さい。



### 紅葉の中を



空は青くすみわたり、辺りはきれいに紅葉して静かな秋です。この秋の中を思いっきり駆け抜きたい気分になり、津和野の堀庭園に向かいました。

青い空に箒で掃いたような雲の下を：赤や黄色の木の葉っぱが埋め尽くし、時々風が吹くと木の葉が落ちる音がため息のように聞こえます。

どこかから子供の頃に聞いた童謡が聞こえてきそうです。黙っているのもつまらないので小さな声で歌ってみたり里の秋ですが誰も褒めてはくれません。カラスが木の上で頭をかしげてみているだけでした。

やがて車の往来が多くなり堀庭園に近づいたようです。老若男女、カップルが行きかい私達も歩くことになりました。私の苦手な行動ですが仕方ありません。外観だけ見て帰ることにし

ようと勝手に決めてふらふら足を進めると、一足先にいった連れ合いが切符を買っていました。

それもそうよなあ折角きたからにはもったいないわ、と欲と二人連れで見える事見る事・綺麗に紅葉していました。書院造りの客殿、楽山荘の二階から眺める綺麗な庭園はさぞかしと思いつつ二階には上がりたらず庭園を歩いてみました。マスクをしたひとたちが黙って散策していました。

また元気で来ることが出来るように念じながら美しい庭園をあとにして帰路につきました。帰りの道も綺麗でした。

帰ったら我が家の周りは、今朝出かける時よりも紅葉はさらに進み、私達を待っていました。



### 音楽の

#### 素晴らしさ



ライターの間藤洋さんの「フログイン・ティーズ」の記事を、元理科学研究所職員の小早川留さんが自身のフェイスブックで紹介されていたのを偶然読みました。

癌になると細胞の音の調和が崩壊することを米英の研究者たちが突き止める。

健康の乱れは体内音楽の周波数の乱れとありました。何かよく読んでみたいと思います。

それを見るときもどかしいのはコロナが流行る前まではゆめさんでは必ず、音楽の先生だった方が歌の時間を楽しませてくださっていたのです。今はマスクをかけての会合、大事をとって休会が続く残念でなりません。第三土曜日の午後アカペラの歌が響いた日が懐かしく思われます。さあ十一月の会はどうでしょうか。

紅葉の秋に、楽しく歌った日々を思い出しています

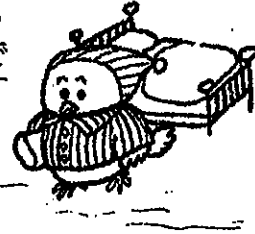
# ゆめサロン

## 便り

令和 4年  
12 月 3 日  
吉賀町ゆめサロン  
No.527

### あと一か月

皆様お久しぶりです



お元気で過ごしていることと思いがた。コロナは治まらずそれどころか次々と増えているのは不安です。久しぶりにお会いできるかと楽しみにしておりますがどうなることでしょうか。

お体に気を付けてお過ごしくださいませ。



### 晩秋の

#### 思い



今年はずれの日が多く、青空を悠々と飛んで行く白鷺をみると一枚の絵を見ているような豊かな気持ちになります。

樺の葉っぱが時折吹く風に飛ばされていく様はまるでアサギマダラが海を渡るのを間違えてここに迷い込んだのかと、錯覚を起こしてしまいます。

午後の日が紅葉を照らす頃、じつと見つめています。

猫の子一匹もいないし、かな。晩秋の晴れた日に、過ぎた日々を思い出します。

### 私の場合の

#### 年を重ねる



若いころは、年とつたら経験も豊富で心配事

もなく、いいだろうなあと思っており、でも実際に年を取ってみると違い、わからないことは多くなるし、当然のことながら体が古くなるのだから体調は悪くなることが多いし、体は思うように動かないし、あまりいいことはありません。友達や言うには、はからずまでが馬鹿にする。と

さあこれから幸せな老後をおくるには・・・と構えてしまうのですが、誰も老い迎えます。自然体でいくしかないようです。ただ自然の移り変わりをみていると心安らぐ今日このごろです。

### 縁起を



考えを  
私が日々感じる事は朝起きてテレビを見ようと思つてテレビをつければ決まつて事件や事故、ウクライナのことなどが容赦なく目や耳に飛び込んできて心が痛みます。年より

なのだから、そんな早くからニュースを見なくてもいいのではなにかと思ひますが、取り残されそうでまたみてしまいます。若い頃、好きな歌を口ずさみながら暗いうちに出掛けていたことを思い出します。そう、歌を自分で歌えはいんだ。と思うけど、お婆さんが歌いながら炊事するなんて似合わないかあと笑えます。

### 見たこともない



とりが  
先日のことです。友達と電話で他愛のない話をしながら外を見るときもなしにみて居ました。多分鳥だと思つたのですが、羽根を激しくばたつかせながら紫陽花の小枝にとまろうとしていました。もしかしたら蝶かもしれない。電話は上のそらで・・・とうとう「ごめん、ささいなこともない鳥が」と言つたら相手の方が気を悪くされて切られてしまいました。申し訳ないことをしました。鳥のせい・・・